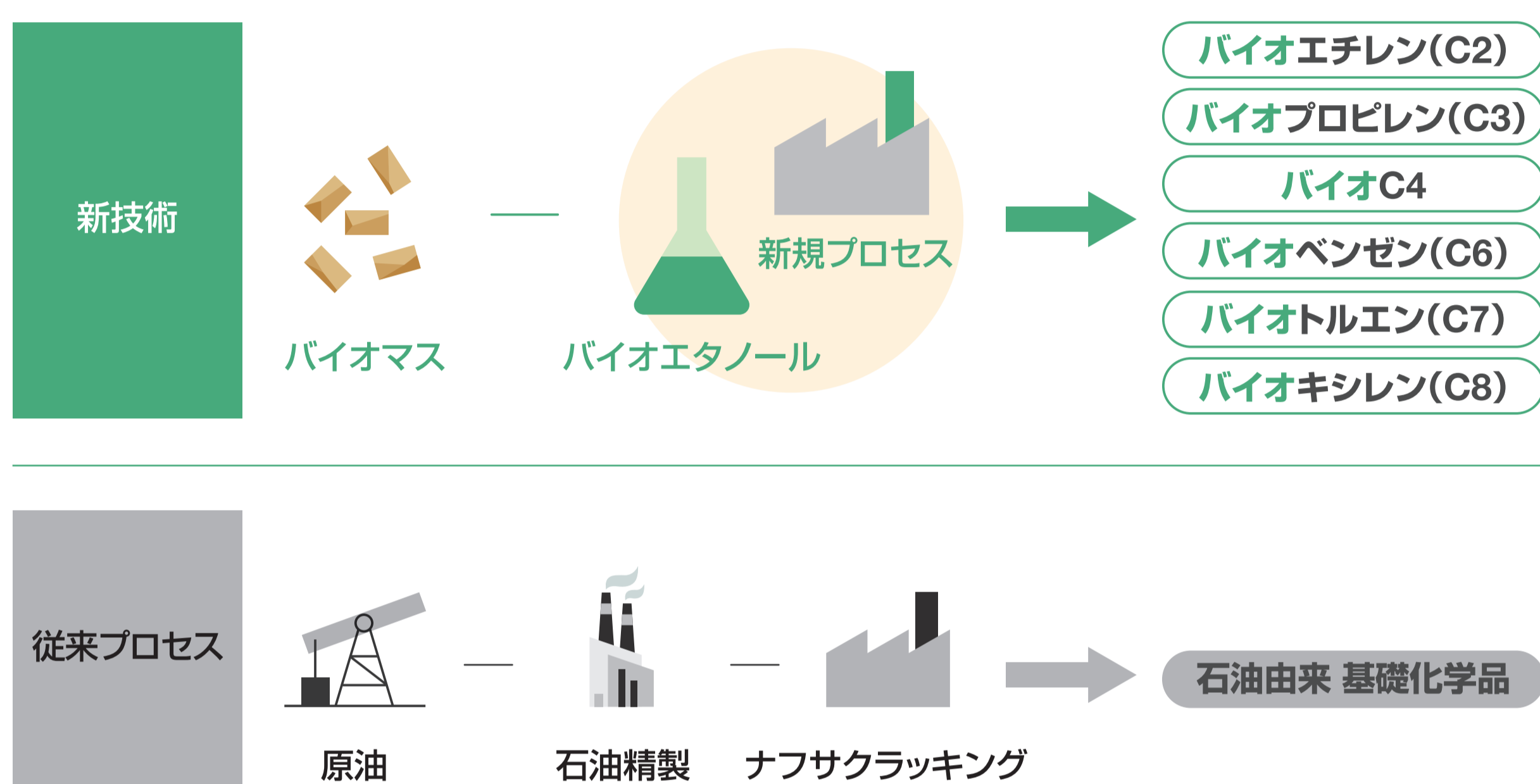


サーキュラーエコノミーへの貢献 より多くの自動車部品をバイオマス由来に

開発中（2027年上市目標）

旭化成は、バイオエタノールから基礎化学品を製造する技術を開発しています。この技術により、自動車部材に使用される多くの材料をバイオマス原料由来で製造することができ、石油使用量およびCO₂排出量削減に貢献します。

旭化成独自技術 バイオエタノールから基礎化学品を製造



プラスチック (PP, PA, PE, ABS等)

合成繊維 (表皮材・エアバック等)

その他化学品 (ウレタン、塗料、接着剤等)

特長 1 サーキュラーエコノミーに貢献

現在各国で進められている3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取組ですが、すべての材料がリサイクルに適しているわけではありません。従って3Rに加え、バイオマスプラスチックの使用が増えれば、化石資源の使用を減らすことができ、更なるCO₂削減効果が期待できます。

特長 2 幅広い製品に適用可能

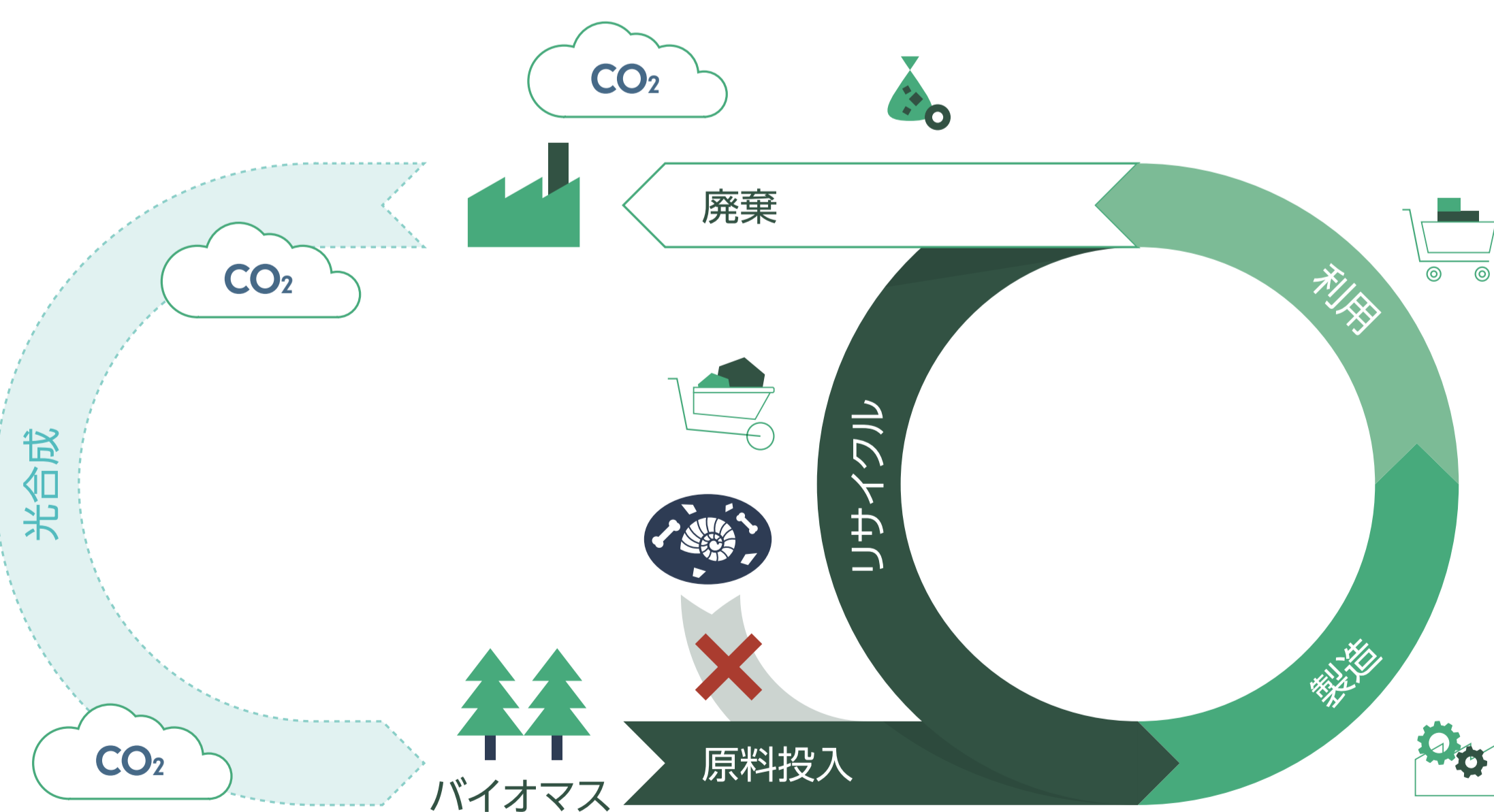
プラスチック、カーシート、エアバック、塗料、接着剤等、従来化石原料の代替が難しいと考えられていた製品も含めバイオマス原料を用いることが可能になります。

特長 3 設備・プロセス変更不要

石化由来品と比較し性能が変わらないので、サプライチェーンの下流ではあらたな設備が不要、材料評価の手間を軽減できます。

お客様からの声

- エチレン以外もバイオマス化できるのであれば、適用製品用途が広がるので詳しく話が聞きたい。
- バイオマス原料に置き換わるだけで、材料の性質や機能が変わらないのは良い。



1

リサイクルに適しない材料への適用

リサイクルが難しい材料(塩化ビニル樹脂、熱硬化樹脂等)
回収が難しい化学品(洗剤、塗料等)
回収は出来ても分離が難しい複合材など

2

新規投入材料への適用

すべての製品に寿命があります。3Rの取組が加速することで、全体の化石資源使用量は減りますが、それでも新規に投入する材料は必要です。

パネルデータはこちら ▶

